

冬季の事故と防止対策について

冬季における北海道周辺海域は、発達する低気圧の通過に伴い海上が荒天となりやすく、これが原因で海難が発生する場合があります。

天候急変による小型船舶の転覆海難

冬季は低気圧が発達して天候が急変し、小型船などは波浪などの影響により浸水、更には転覆海難を引き起こすことがあります。

出港前はもちろんのこと、航行中でも常に最新の気象情報を入手し、天候が悪化するようであれば、出港の取り止めや早期に帰港することを心掛けましょう。

係留不備による船体の損傷・流出

風浪の影響で、係留索や錨索が緩んだり切れることによって船体が岸壁に打ちつけられ損傷したり、流出することがあります。

日頃から係留索等の点検を行い、磨耗が著しいものは交換するようにしましょう。

また、天候の悪化が予想される場合は、事前に係留索の本数を増やしたり、防舷物やすれあての設置、更には船を陸揚げするなど荒天対策を行なうようにしましょう。

錨泊中の貨物船による乗揚げ海難

荒天時に貨物船が走錨し、防波堤や陸岸に乗揚げの事故が発生しています。

錨泊するときは適切な錨地及び錨泊方法を選定し、錨泊後も走錨による海難を防止するため、当直による自船位置の確認等、見張りを徹底しましょう。



積雪による係留中の小型船舶浸水・沈没

冬期間、係留中の小型船舶の甲板上に雪が積もり、その重みで船が傾斜して浸水し、更には沈没することがあります。

定期的に自船の係留状態の見回りを行い、必要に応じて除雪を行なうようにしましょう。

！入港後も点検・メンテナンスを行いましょ

冬期間、船体及び機関などの点検・メンテナンスを行わずそのまま船を保管すると、燃料及び潤滑油の劣化、船体の金属部分の発錆など海難を発生させる原因となります。

次回使用するときのトラブルを防止するため、入港後の点検・メンテナンスを確実にいましょう。

お問い合わせ

第一管区海上保安本部交通部

電話 0134-27-0118 (内線2643, 2644)



海難隻数及び海難による死者・
行方不明者数(速報値)10

10月	11隻、0人
平成30年累計	84隻、2人